

取組紹介② B高等学校

コミュニケーション能力の育成に特化した授業で 4技能をバランスよく伸ばす

◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年2月調査日時点）

設立・形態	平成20（2008）年設立 全日制／2学科（本報告書では「I学科」「II学科」と呼ぶ）／共学
学級数・生徒数	I学科／第1学年…8学級（320人） 第2学年…7学級（280人） 第3学年…7学級（280人） II学科／第1学年…1学級（40人） 第2学年…1学級（40人） 第3学年…1学級（40人）
A L T活用状況	常勤のA L Tが2人
取組の特長	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実…コミュニケーション能力の育成を重視し、4技能を伸ばす言語活動をバランスよく配置 ・英語力の差に配慮したコミュニケーションを円滑に行う工夫…英語力に左右されず生徒がペア・ワークやグループ・ワークに意欲的に取り組めるよう、1年次に「コミュニケーション・ストラテジー」を指導 ・授業と評価の一体化…インタビューテストなどのパフォーマンス評価を導入

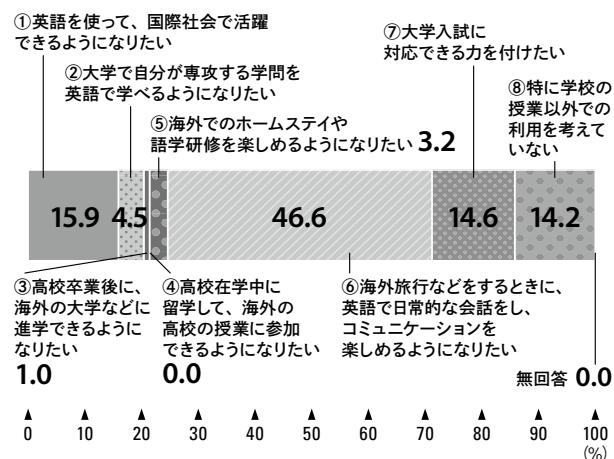
◎試験結果、質問紙における学校の特徴

・第3学年の平均スコア（点）

	Reading	Listening	Writing	Speaking
B高等学校	121.0	109.0	26.2	5.5
全国平均（公立学校）	126.7 / 320	117.1 / 320	24.9 / 144	4.2 / 14

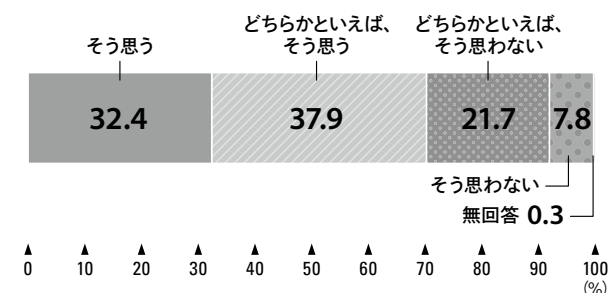
・生徒質問紙結果

No.2 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを一つ選んでください。



No.15 以下の学年の英語の授業では、英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか。

・第3学年



平均的なスコアだが、生徒の目標意識が高い

4技能の得点は全国平均とほぼ同じだが、生徒質問紙No. 2「英語を身に付けたい程度」で、「⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない」生徒は14.2%と全国平均の25.0%と比べて低く、「⑥海外旅行などをすると、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい」生徒は46.6%と全国平均の36.7%よりも高い。生徒質問紙No. 10～15「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動」、「英語を読んで概要や要点をとらえる活動」、「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりする活動」、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動」、「スピーチやプレゼンテーション」、「ディベートやディスカッション」を実施していたと思うかについて「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」の回答率は、第3学年でいずれも70%以上と高い。言語活動中心の授業展開が英語学習への目標意識を生み出していると推測される。

◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

1. 4技能を用いて、コミュニケーション能力の育成に特化した授業を展開

B高等学校は、英語によるコミュニケーション能力の向上を教育活動の重点項目に掲げ、現行学習指導要領が始まる前の平成21年度からすべての英語の授業を原則、英語で進めている。平成22年度から3年間は文部科学省の「教育研究開発事業」、平成26年度からは同「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、先進的な取組を行っている。

同校では、英語の授業を「4技能を用いたコミュニケーションの実践の場」と位置付け、特に、各学年に1科目ずつ設置している学校設定科目では、コミュニケーション能力の育成に特化した授業を行っている。1年次は「伝える力」、2年次は「伝え合う力」、3年次は「論じ合う力」をそれぞれ段階的に育てることを目指しながら、4技能を用いた言語活動をバランスよく配置した授業構成としている。例えば、3年次の環境問題を扱う単元では、次の構成で授業を行っている。



- ◎1時間目 環境問題に関するキーワードについてグループでブレインストーミングを行うなどして、スキーマの活性化を図るとともに、重要語句をピックアップして学習する。
- ◎2時間目 環境問題を扱った英字新聞の記事を読み、それを要約した上で、自分の考えを述べる(図1)。
- ◎3時間目 前の時間に読んだ新聞記事の要約と自分の意見を発表する。それに対して教員が質問や反論などをして、生徒が考えをより深めることができるようにする。
- ◎4～6時間目 生徒は提示された10か国の中から1か国を選び、その国の概要と環境問題への取組をリサーチする(図2)。
- ◎7～10時間目 同じ国を選んだ生徒同士でペアになり、情報共有を図る(仮にA国を選んだペアの生徒をA1とA2、B国を選んだ生徒をB1とB2とする)。次に、A1はB2に対し、B1はA2に対し、調べた内容を説明する。聞く側はメモをとり、聞き取った内容を口頭で英

図1 2時間目のワークシート



WORLD NEWS 1 "Camel Cull Muled To Cut Emissions" - Australia -
 Class () No. () Name ()

1. In order to reduce greenhouse gas emissions, what may the Australian government do?

A. Reduce the number of cars B. Reduce the number of greenhouses

C. Reduce the number of wild camels D. Reduce the number of human beings

2. How many wild camels were there in Australia in 2011?
 A. 12,000 B. 120,000 C. 1,200,000 D. 12,000,000

3. What do camels belches contain?
 A. Methane B. CO2 C. Oxygen

4. Summarize the story. Use the words below.
 camels / kill / Australian government / belch / methane

5. Do you agree or disagree with the idea? Why do you think so? Write your opinion.

図2 4～6時間目のワークシート

コミュニケーション活動Ⅱ

Let's investigate! 2

Topic: Measures taken against environmental problems

STEP 1 Write the name of the country you have researched.

STEP 2 Research measures against environmental problems.

STEP 3 Write your opinion about the measures.

Class () No. () Name ()

語で要約し、相手に確認する。その後、最初のペアに戻り、A 2はA 1に対し、B 2はB 1に対し、聞いた内容を説明する。ここでも聞く側は要約をして相手に確認する。この活動を、別の国のペアと繰り返し行う。

◎11時間目 生徒が自分にできる環境保全活動を考え、英語で発表する準備を行う。

◎12時間目 4人グループになって各自の考えを発表し合い、出されたアイデアをまとめる。

◎13時間目 グループ内で役割分担をし、クラスで発表する。

特に、3年次のねらいである「論じ合う力」を伸ばすため、意見交換や発表など、4技能を総合的に育成する言語活動を授業の中心に据えている。常に自分の考えを発言することが求められるため、生徒はおのずと主体的に取り組んでいる。また、決まった答えがないテーマを選ぶことで、言語活動を活性化させるようにしている。

授業は学年共通のワークシートを使って進める。学年の担当教員が、CAN-DOリストを踏まえて各単元や各授業で付けたい力を話し合っで決め、それを落とし込んだワークシートを作成している。そのため、教員によって指導の内容や方法に大きな差はなく、担当教員が変わっても学習の積み上げに支障が生じることはない。

2. 「コミュニケーション・ストラテジー」を1年次に指導し、英語力の差に配慮する

授業では生徒同士が英語で話し合う場面が多いため、生徒間の英語力の差にも配慮している。例えば、英語力の差が大きい2人でペア・ワークを行うと、英語力が高い生徒には「伝わらない」、低い生徒には「わからない」という不満が生じ、どちらも意欲を失いやすい。その対応策として、1年次に、相手に伝わりやすい話し方や、相手の発話を理解できなかったときの聞き返し方といった、基本的な「コミュニケーション・ストラテジー」を指導している。例えば、聞き取れないときには“Could you speak slowly?”、理解できない単語が含まれているときには“I’m sorry, but I don’t understand what it means. Could you explain in simple English?”、イメージが湧かない内容については“Could you give me some examples?”といった質問をするように指導する。また、相手の話がわからなくても下を向かずに理解できるまで聞き返す姿勢や、多少の誤りは気にせず相手に伝えようとする気持ちが大切であるといった授業での心構えを繰り返し生徒に伝えている。

同校では、ペア・ワークやグループ・ワークにおいて、他の生徒との会話から単語や表現方法などを学んだり、聞き返されたときにはよりわかりやすく伝わるように表現を工夫したりすることが、生徒にとっては効果的なトレーニングになると考えている。そのため、英語力に差があっても、それがかえってそれぞれの生徒の学習になるととらえ、習熟度別の授業は行っていない。

3. スピーキング活動の補助として「マインド・マッピング」を活用

授業では、入学当初から英語を使って考え、話す力を育てることを目指している。そこで、スピーキング活動を補助するものとして、「マインド・マッピング」を活用している。これは、話そうとする内容のキーとなる語句だけをワークシート上のバルーンに書き、それを参考にしてスピーキング活動に結び付けるものである。例えば、1年次の最初に行う自己紹介では、自分が好きなこととして“music”や“tennis”といった単語をバルーンに書き、発表時には“My hobby is listening to music.”、“My favorite sport is tennis.”などと必要な語句を補って文の形で発表する。

「マインド・マッピング」は、自分の考えを図式化して整理することに適している。同時に、事前に書いた英文を覚えて話す場合とは異なり、キーワードだけを頼りに即興で話す力の育成にもつながる（137ページ図3）。

4. インタビューテストを始めとしたパフォーマンス評価を導入

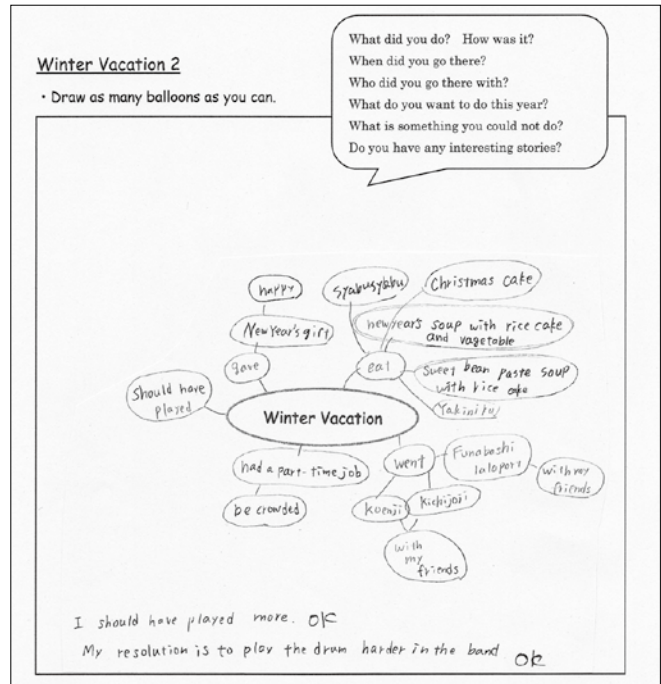
コミュニケーション能力の育成に特化した学校設定科目においては、筆記による定期考査は実施せず、各学期1～2回、1人約5分間のインタビューテストを実施している。毎回、事前にテーマを伝えておき、制限時間内で自由にスピーチをさせ、その後、教員と質疑応答を行う。テーマは、授業内容に関連するものに加え、「今年度の反省と来年度の抱負」といった身近な話題を設定している。

教員間でインタビューテストの評価を統一するため、年度最初のインタビューテストをビデオ撮影し、特に評価が難しいと思われる生徒の映像を見ながら評価の観点について話し合う。その上で、テストごとに具体的な評価項目及び評価規準を示した評価表を作成している(138ページ図4)。

高校生の段階ではとにかく相手に伝えようとする気持ちを育むことが重要であると考え、スピーキングやライティングの評価では、使用語彙や文法の正確性は重視していない。一方、授業で学習したことや自分で調べたことを積極的に使った場合はその「リスクに立ち向かう姿勢」を評価し、たとえ英語に誤りがあったとしても加点している。

評価における他の特徴として、授業中に積極性が見られた生徒には、その都度、教員がポイントカードを配り、意欲面での加点をしている。また、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、評価全体に占める定期考査の割合を50%に抑えている。さらに、定期考査のリスニングやリーディングに関する問題は、教科書からのみの出題ではなく、生徒が初めて見聞きする題材も用いている。

図3 1年次 自己紹介のためのマインド・マッピング



教室からの声

教員が日頃から、「間違えてもいいから表現してみよう」と繰り返し伝えるとともに、生徒間の英語力の差に配慮していることもあり、授業中に発言する生徒に偏りはあまり見られない。英語を使って考え、交流し、問題を解決していくという授業スタイルは、多くの生徒が楽しいと感じているようだ。「中学校の頃は、先生の話聞いてノートをとるだけだった。自分の考えを話したり書いたりすることは楽しい」、「英語が話せるようになったことがうれしい。もっと話せるようになりたい」、「初めは英語を話すのが恥ずかしかったけど、すぐに慣れた」といった前向きな声が聞かれる。

さらに、「自分の考えを持つようになった」、「調べる力が付いた」といった声からは、英語力にとどまらず、論理的思考力などの汎用的な力が育っていることがうかがえる。

◎授業以外の取組

1. 英語学習の目標となるオーストラリアへの短期語学研修

毎年、全校生徒の希望者を対象に、夏季休業中の2週間、オーストラリアの高校で短期語学研修を実施している。この研修への参加を希望して同校へ入学してくる生徒もいる。ホームステイをしながら現地の高校で授業を受け、英語力を磨くとともに、オーストラリアの文化や生活について理解を深めていく。

定員は約20人だが、近年は希望者が定員を大幅に上回る状況のため、平成27年度は定員を50人程度に増やすことを検討している。

2. 生徒による小学校での「出前授業」でコミュニケーションの幅を広げる

Ⅱ学科では、生徒が市内の小学校を訪問し、「高校生が先生」という英語の授業を行っている。平成26年度は、英語で会話をしながら、カレーの材料の買い物をする場面を想定した授業を行った。英語によるコミュニケーションを楽しむことに重点を置き、生徒は小学生とできるだけ英語を用いて会話をしている。多くの生徒は、わかりやすい英語で教えることの難しさを実感するという。この活動は、生徒の地域社会に貢献する意識を高めるとともに、英語でのコミュニケーションの幅を広げるきっかけの一つとなっている。一方、小学生にとっては英語に触れる機会となることに加え、高校生との触れ合いがキャリア教育の一環にもなっている。

図4 「コミュニケーション活動Ⅱ」のインタビューテスト評価表

		コミュニケーション活動Ⅱ 2学期インタビューテスト評価表				
項目	縦:項目、横:配点	4	3	2	1	0
項目1	Quantity	調べた国の概要と環境に対する取り組みについて、発話量が非常に多い。	調べた国の概要と環境に対する取り組みについて、発話量が多い。	調べた国の概要と環境に対する取り組みについて、説明することができる。	調べた国の概要と環境に対する取り組みについて説明できるが、発話量が少ない。	調べた国の概要と環境に対する取り組みについて、全くあるいはほとんど発話がない。
項目2	Quality(国の概要について)	国の概要に関し、回答の中に必要な要素が含まれており、内容や構成が非常にしっかりしている。	国の概要に関し、回答の中に必要な要素が含まれており、内容や構成がしっかりしている。	国の概要に関し、回答の中に必要な要素が含まれている。	国の概要に関し、回答の中に必要な要素が欠けている。	国の概要に関し、回答の中にほとんど必要な要素が含まれていない。
項目3	Quality(環境に対する取り組みについて)	環境に対する取り組みに関し、回答の中に必要な要素が含まれており、内容や構成が非常にしっかりしている。	質問したことに関し、回答の中に必要な要素が含まれており、内容や構成がしっかりしている。	質問したことに関し、回答の中に必要な要素が含まれている。	質問したことに関し、回答の中に必要な要素が欠けている。	質問したことに関し、回答の中にほとんど必要な要素が含まれていない。
項目4	Verbal	発音やアクセントに非常に注意を払って発話している。	発音やアクセントに注意して発話を行っている。	カタカナ英語で音声面での工夫があまりなされていない。	聞き手に通じない発音が多く含まれている。	音声面で非常に問題が多い。
項目5	Enthusiasm	自分の意思を理解させるために様々な方策をとる。非常に効果的である。		自分の意思を理解させるために様々な方策をとっている。		すぐにあきらめてしまったり、自分の意思を伝えようと努力が見られない。
クラス()番号()氏名()					合計点	

取組紹介③ C高等学校

CAN-DO リストに基づいた 4技能統合型授業を推進

◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年2月調査日時点）

設立・形態	明治34（1901）年設立 全日制・定時制・分校／普通科／共学
学級数・生徒数	15学級（548人）／第1学年…5学級（183人） 第2学年…5学級（169人） 第3学年…5学級（196人）
ALT活用状況	ALTは1人で、週4日勤務。授業は1・2年次の全クラスでそれぞれ週1回担当
取組の特長	<ul style="list-style-type: none"> ・学習到達目標の明確化…CAN-DO リストに基づくシラバス、授業内容の整備 ・モチベーションの向上…生徒の学習意欲向上を重視した評価の工夫 ・課外活動の充実…コンテストや短期海外研修への積極的な参加

◎試験結果、質問紙における学校の特徴

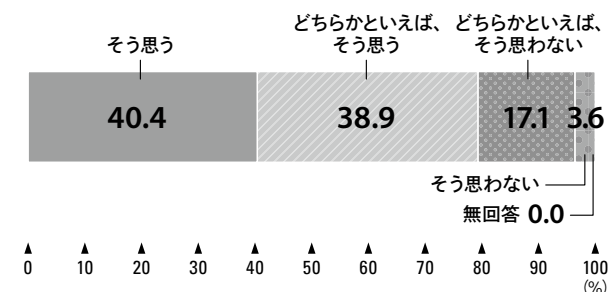
・第3学年の平均スコア（点）

	Reading	Listening	Writing	Speaking
C高等学校	137.2	134.6	54.8	8.8
全国平均（公立学校）	126.7 / 320	117.1 / 320	24.9 / 144	4.2 / 14

・生徒質問紙結果

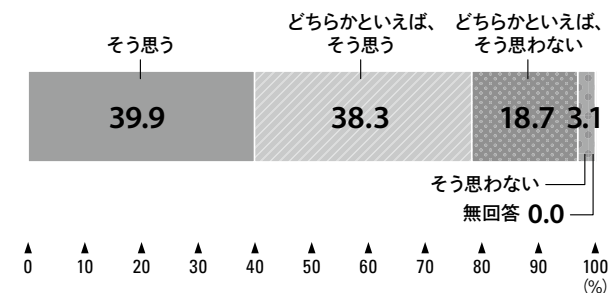
No.12 以下の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

・第3学年



No.13 以下の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

・第3学年



4技能を使った言語活動の割合が高く、特にライティング力が高い

4技能のスコアは全国平均よりも高く、特にライティングは54.8、スピーキングは8.8と全国平均の2倍以上のスコアで、その他の2技能が同レベルの学校に比べて高い。また、生徒質問紙No.10～13「英語を聞いて概要や要点をとらえる活動」、「英語を読んで概要や要点をとらえる活動」、「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりする活動」、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動」はいずれも高い割合で実施している。今回の調査において、同程度のスコアの学校ではリスニング及びリーディングに比べて、スピーキング及びライティングの言語活動の実施率が低くなる傾向が見られるが、両技能についてもしっかり授業で取り組んでいるのは特筆すべき点の一つである。また、学校質問紙No.4「英語科の指導目標やその達成に向けた方策について、全英語科教員の間で共有し、取組に当たっているか」についても「よくしている」という回答で、英語科が一丸となって取り組んでいる様子がうかがえる。

◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

1. 指導改善をするに当たり、まず生徒の意識を調査

C高等学校は、旧制中学校を前身とする県下有数の伝統校である。毎年、生徒の約半数が国公立大学へ進学する一方、部活動も盛んである。

平成22年度から英語力強化を目標に掲げ、CAN-DOリストに基づいた4技能統合型の授業や、学習到達目標に応じた評価の工夫などの改革に取り組んでいる。学習指導要領の改訂を見据え、コミュニケーション能力の育成を中心とした指導法を確立するとともに、生徒の入学時の英語力が他教科に比べて低いという恒常的な課題に取り組み、学力向上を図るねらいがあった。

改革に当たり、まず、生徒に英語の学びに関する意識調査を行った。これは、生徒がどのように学習に向かっているのかを知らずに教員の独断で指導改善を進めても、生徒のための改革にはならないと考えたからである。調査結果は、教員にとって驚くべきものだった。実力以上に自己肯定感が低いことに加え、「英語は“勉強しなくてはならない教科”として取り組んでいる」という生徒が多かったのだ。多くの生徒は、英語は実際に使うものではなく、「解く」ものであるという認識だった。

2. CAN-DOリストに基づいた授業設計で、教員間で指導の足並みをそろえる

指導改善の最大の特徴は、CAN-DOリストに基づいて、各学年の学習到達目標、年間指導計画（シラバス）、各授業とその評価方法が設定されている点である。

CAN-DOリスト（142ページ図1）では、4技能をそれぞれレベル1～6に分け、計216項目が設定されている。これを基に、各学年の学習到達目標（143ページ図2）を設定した上で、技能ごとに身に付けるべき力、それを身に付ける具体的な科目などを記し、学年ごとの年間指導計画（144ページ図3）に落とし込んでいる。年間指導計画には、単元ごとの目標と学習活動、評価の観点・方法を明記し、授業で行った活動について、生徒は「Self-Evaluation Sheet」（145ページ図4）を用いて自己評価を行う。

生徒には、図1のCAN-DOリストそのものではなく、図2の学習到達目標を13項目6段階にまとめた生徒用のリストが配付される。生徒は各項目を見て、年2回、自分ができていると思う項目にマーカーを引く。1年次4月に第1回を行い、以後、半年に1回、マーカーの色を変えながら項目ごとに達成度を確認する。このように、自分は何ができるようになったのかを可視化し、次に何をやる必要があるかを自分で考えるようにしている。その結果、多くの生徒は入学時より確実に英語力が伸びているという実感を持ち、英語学習に対するネガティブなイメージを払拭（ふっしょく）できている。ここでは、生徒の自己評価が適切であるかどうかは大きな問題ではなく、生徒が「できる」と思うこと、それに連動して学習意欲が高まり、よりよい学びの方向に進んでいくことが重要になってくる。同校では、CAN-DOリストは測定の道具ではなく、あくまでも動機付けの手段、学びの道標ととらえている。

学年末には、生徒がCAN-DOリストの達成率を4段階で自己評価するアンケートを実施する。その結果を基に、教員は学習到達目標に沿った指導・評価ができているかどうかを検証する。読むスピードが遅い生徒が多い学年であれば朝学習に速読を取り入れるというように、学年ごとの課題を浮き彫りにして次年度の授業改善につなげていく。

同校では、英語科すべての教員がCAN-DOリスト、シラバス、テストを共有し、足並みをそろえている。指導と評価の方向を共有することで、教育の質を保証するとともに、教える側に安心感をもたらし、その中で自分なりの個性や工夫を足していく楽しさが生まれると考えている。

3. 毎時間ペア・ワークを行い、実際の場面で使えるスピーキング力を育成

授業ではほぼ毎時間、ウォームアップとして、既習文法を活用したペア・ワークを行っている。

図1 CAN-DO リスト

CAN-DO LIST (March 2014 version)		LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	LEVEL 4	LEVEL 5	LEVEL 6
1	W/M (聴解の基)	1分間80～100語レベルの英文の概要を正確に聞き取る。何となく話された会話を捉え、何となく内容を理解できる。	1分間80～100語レベルの英文の内容を正確に聞き取る。何となく話された会話を捉え、何となく内容を理解できる。	1分間100～120語レベルの英文の概要を正確に聞き取る。自然な発話を捉え、大意を正確に理解できる。	1分間100～120語レベルの英文の内容を正確に聞き取る。自然な発話を捉え、大意を正確に理解できる。	1分間120～140語レベルの英文の内容を正確に聞き取る。	1分間140～160語レベルの英文の内容を正確に聞き取る。
2		教室で用いられる英語は、ゆとりと繰り返し話された簡単なものである。あるいは大まかに理解できる。	教室で用いられる英語は、繰り返し話された簡単なものである。	教室で用いられる英語は、自然なスピードで話されたものである。教室の内容を正確に理解できる。	教室で用いられる英語は、自然なスピードで話されたものである。教室の内容を正確に理解できる。	教室で用いられる英語は、自然なスピードで話されたものである。教室の内容を正確に理解できる。	教室で用いられる英語は、自然なスピードで話されたものである。教室の内容を正確に理解できる。
3	Classroom English (教室内英語の聞き取り)	英語で電話通話を聞いたり、お祈りや挨拶を聞いたり、ゆとりと簡単な英語で話されたものは、ほぼ理解できる。(GTEC Gr. 2)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 3)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 4)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 5)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 6)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 7)
4	Listening (聴解)	英語で電話通話を聞いたり、お祈りや挨拶を聞いたり、ゆとりと簡単な英語で話されたものは、ほぼ理解できる。(GTEC Gr. 2)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 3)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 4)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 5)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 6)	英語のネイティブスピーカーがスピーチやプレゼンテーションなどについて話されれば、おおよそその内容を理解できる。(GTEC Gr. 7)
5	Topic (英文の題材)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J A1. 2)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J A1. 3)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J A2. 1)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J A2. 2)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J B1. 1)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J B1. 2)
6		日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J A1. 2)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J A1. 3)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J A2. 1)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J A2. 2)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J B1. 1)	日常生活の身近なトピックについて話されたものは、聞き取りやすい。場所や時間等の具体的な情報も聞き取ることができる。(CEFR-J B1. 2)
7	Formal (英文の形態)	教科書のリスニング活動で聞かされた文法事項は、1文ずつで理解できる。(GTEC Gr. 3)	教科書のリスニング活動で聞かされた文法事項は、1文ずつで理解できる。(GTEC Gr. 3)	教科書のリスニング活動で聞かされた文法事項は、1文ずつで理解できる。(GTEC Gr. 4)	教科書のリスニング活動で聞かされた文法事項は、1文ずつで理解できる。(GTEC Gr. 5)	教科書のリスニング活動で聞かされた文法事項は、1文ずつで理解できる。(GTEC Gr. 6)	教科書のリスニング活動で聞かされた文法事項は、1文ずつで理解できる。(GTEC Gr. 7)
1	Speed/Rapid Reading (速読)	1分間で100語程度の速読が可能である。(目安: 60WPM)	1分間で100語程度の速読が可能である。(目安: 60WPM)	1分間で100語程度の速読が可能である。(目安: 60WPM)	1分間で100語程度の速読が可能である。(目安: 60WPM)	1分間で100語程度の速読が可能である。(目安: 60WPM)	1分間で100語程度の速読が可能である。(目安: 60WPM)
2	Comprehension (理解)	教科書の本文を、日本語に訳しながらであれば、内容を理解できる。(GTEC Gr. 2)	教科書の本文を、日本語に訳しながらであれば、内容を理解できる。(GTEC Gr. 3)	教科書の本文を、日本語に訳しながらであれば、内容を理解できる。(GTEC Gr. 4)	教科書の本文を、日本語に訳しながらであれば、内容を理解できる。(GTEC Gr. 5)	教科書の本文を、日本語に訳しながらであれば、内容を理解できる。(GTEC Gr. 6)	教科書の本文を、日本語に訳しながらであれば、内容を理解できる。(GTEC Gr. 7)
3	Reading Materials (英文の題材)	簡単な文法事項や単語などの日常生活に関する事項について、簡単な英文で書かれたものは、理解できる。(CEFR-J A1. 2)	簡単な文法事項や単語などの日常生活に関する事項について、簡単な英文で書かれたものは、理解できる。(CEFR-J A1. 3)	簡単な文法事項や単語などの日常生活に関する事項について、簡単な英文で書かれたものは、理解できる。(CEFR-J A2. 1)	簡単な文法事項や単語などの日常生活に関する事項について、簡単な英文で書かれたものは、理解できる。(CEFR-J A2. 2)	簡単な文法事項や単語などの日常生活に関する事項について、簡単な英文で書かれたものは、理解できる。(CEFR-J B1. 1)	簡単な文法事項や単語などの日常生活に関する事項について、簡単な英文で書かれたものは、理解できる。(CEFR-J B1. 2)
4	Reading (読解)	個人的な短い手紙やメールの英語のメッセージを、語彙を知らないから読み取ることができない。(GTEC Gr. 2)	個人的な短い手紙やメールの英語のメッセージを、語彙を知らないから読み取ることができない。(GTEC Gr. 3)	個人的な短い手紙やメールの英語のメッセージを、語彙を知らないから読み取ることができない。(GTEC Gr. 4)	個人的な短い手紙やメールの英語のメッセージを、語彙を知らないから読み取ることができない。(GTEC Gr. 5)	個人的な短い手紙やメールの英語のメッセージを、語彙を知らないから読み取ることができない。(GTEC Gr. 6)	個人的な短い手紙やメールの英語のメッセージを、語彙を知らないから読み取ることができない。(GTEC Gr. 7)
5	Stop/Explain Reading (読む-説明する)	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。
6	Stop/Explain Reading (読む-説明する)	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。	単語や文法事項を説明しながら、文章の内容を説明することができる。
7	Oral (スピーチ)	簡単な説明文を読み、筆者の意図を正確に説明することができる。	簡単な説明文を読み、筆者の意図を正確に説明することができる。	簡単な説明文を読み、筆者の意図を正確に説明することができる。	簡単な説明文を読み、筆者の意図を正確に説明することができる。	簡単な説明文を読み、筆者の意図を正確に説明することができる。	簡単な説明文を読み、筆者の意図を正確に説明することができる。

図2 各学年の学習到達目標

平成 26 年度 学習到達目標 (「CAN-DO リスト」形式)							
<p>【卒業時】</p> <p>◎外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、自ら積極的にコミュニケーションを図ろうと努力する生徒。また、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身につけた生徒。「郷土を誇り、郷土が誇る」地球市民としての資質を備えた生徒。</p>							
「外国語表現の能力」				「外国語理解の能力」			
<p>【第3学年】 履修科目：「コミュニケーション英語Ⅲ」及び「英語表現Ⅱ」 / 主な教材：GENIUS Communication English Ⅲ / Grove English Expression Ⅱ</p>							
話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<p>◎聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基き、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめることができる。</p> <p>・与えられた条件に合わせて、伝えたい内容を整理して、論理的に即興で話することができる。(目安：120秒スピーチ)</p> <p>・多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、互いに合意できる部分とできない部分を整理して話することができる。</p> <p>・身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。</p>	<p>コミュ英Ⅲ ・プレゼンテーション ・ディベート 英語表現Ⅱ ・ディベート ・プレゼンテーション ・インタビューテスト</p>	<p>◎聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基き、情報や考えなどについて、読み手や目的に応じてまとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>・効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理し、複数の段落で書くことができる。</p> <p>・自分がやりたいと思っていることの説明や理由を論理的に整理して読み手にわかりやすく書くことができる。</p> <p>・自分の書いた英文を、文法や語法の添削だけでなく、よりよい表現や書き方を検討しながら、書き直すことができる。</p>	<p>コミュ英Ⅲ ・ライティングテスト ・定期考査 英語表現Ⅱ ・エッセーライティング ・定期考査</p>	<p>◎物事に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを適切に理解したり、概要や要点を正確にとらえたりすることができる。</p> <p>・講義形式の自然なスピードで話された200語程度の英文を、数回聞けばほぼ正確に理解できる。</p> <p>・リスニング活動に出てくる、ある程度の長さで複数の話題が含まれた話や会話などを聞いて、主題と詳細情報を区別しながら理解できる。</p> <p>・教室で用いられる英語は、自然なスピードで話されてもほぼ理解でき、多少内容が複雑なものであっても、即座に反応することができる。</p>	<p>コミュ英Ⅲ ・リスニングテスト ・定期考査</p>	<p>◎説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方を自ら選択して主体的に行うことができる。</p> <p>・パラグラフの内容を限られた時間内で概要把握できる他、パラグラフ相互の関係もふまえた上で全体の流れをとることができる。</p> <p>・やや長めの物語やエッセイを、辞書を頻りに引かなくても、ある程度未知語を推測しながら全体を読み通し、あらすじや要点を理解することができる。</p> <p>・説明文や評論などの論理的な英文を、文章の構成や筆者の主張、図表との関連に注意しながら内容を的確に理解できる。</p> <p>・英文の内容の理解が十分であり、理解した内容が聞き手に伝わるようにポーズやスピードに工夫を凝らした音読ができる。</p>	<p>コミュ英Ⅲ ・リーディングテスト ・定期考査</p>
<p>【第2学年】 履修科目：「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「英語表現Ⅱ」 / 主な教材：GENIUS Communication English Ⅱ / Grove English Expression Ⅱ</p>							
話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<p>◎聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基き、情報や考えなどについて、話し合ったり、意見の交換をしたりすることができる。</p> <p>・与えられた条件に合わせて、伝えたい内容を整理してわかりやすく、即興で話することができる。(目安：90秒スピーチ)</p> <p>・馴染みのあるトピックについて、ワークシート等を使って準備をすれば、話し合いに参加でき、意見のやり取りをすることができる。</p> <p>・印象に残った出来事について、具体的な描写を加えながら話することができる。(旅行、イベントなど)</p>	<p>コミュ英Ⅱ ・プレゼンテーション ・ディスカッション 英語表現Ⅱ ・プレゼンテーション ・ディスカッション ・インタビューテスト</p>	<p>◎聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基き、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>・自分の意見や感想を論理的に整理し、段落構成を意識して書くことができる。</p> <p>・自分の興味のある話題やものに対して、意見や感想を発信することができる。</p> <p>・自分や友人の書いた英文を、辞書を活用しながら推敲することができる。</p>	<p>コミュ英Ⅱ ・ライティングテスト ・定期考査 英語表現Ⅱ ・エッセーライティング ・定期考査</p>	<p>◎物事に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p> <p>・自然なスピードで話される120～140語程度の英文を、数回聞けば、その使用状況や概要をおおむね理解できる。</p> <p>・5文程度の長さの英語の短い話や会話などを聞いて、話し手の意図や内容の状況を理解できる。</p> <p>・教室で用いられる英語は、自然なスピードで話されてもほぼ理解でき、即座に行動に移すことができる。</p>	<p>コミュ英Ⅱ ・リスニングテスト ・定期考査</p>	<p>◎説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方ができる。</p> <p>・パラグラフの概要を短時間で理解することができることも、パラグラフ相互の関係も理解することができる。</p> <p>・物語やエッセイを読む時は、辞書を引かなくても、ある程度推測しながら全体を読み通してストーリーの概要や要点を理解することができる。</p> <p>・論理的な英文を読む時には、論理の流れを理解しながら、筆者の意図や主張を読み取ることができる。</p> <p>・英文の内容の理解が十分であり、内容が聞き手に伝わる自然な区切りやスピードで音読ができる。</p>	<p>コミュ英Ⅱ ・リーディングテスト ・定期考査 ・音読テスト ・暗唱テスト ・定期考査</p>
<p>【第1学年】 履修科目：「コミュニケーション英語Ⅰ」及び「英語表現Ⅰ」 / 主な教材：GENIUS Communication English Ⅰ / Mainstream English Expression Ⅰ</p>							
話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<p>◎聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基き、情報や考えなどについて、自分の意見を表現したり相互に意見を交換したりすることができる。</p> <p>・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基き、情報や考えをまとめ、自分の言葉で発表することができる。(目安：60秒スピーチ)</p> <p>・馴染みのあるトピックについて、ワークシート等を使って準備をすれば、話題に沿った発言をすることができる。</p> <p>・絵や写真などの資料を使いながら、よく知っている話題に関して、メモを見ながらであれば、聞き手にわかりやすく説明できる。</p>	<p>コミュ英Ⅰ ・インタビューテスト ・スピーチ 英語表現Ⅰ ・インタビューテスト ・スピーチ ・ディスカッション</p>	<p>◎聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基き、情報や考えなどについて、簡潔に書くことができる。</p> <p>・自分の意見や感想、または出来事の描写を5～6文程度の英語で書くことができる。</p> <p>・英語の手紙や電子メールなどを、辞書を引きながらであれば、書くことができる。</p> <p>・友人の書いた英文の中で、内容が面白い部分や気に入った表現などに下線を引きながら読み、内容について簡単なコメントを書くことができる。</p>	<p>コミュ英Ⅰ ・ライティングテスト ・定期考査 英語表現Ⅰ ・ライティングテスト ・定期考査</p>	<p>◎物事に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p> <p>・比較的ゆっくりと話される120～140語程度の身近な話題の英文の概要を理解することができる。</p> <p>・教室で用いられる英語は、繰り返し話されれば、ほぼ理解できる。</p> <p>・5文程度の長さの英語の短い話や会話などを聞いて、話し手の意図や内容の状況をほぼ理解できる。</p>	<p>コミュ英Ⅰ ・リスニングテスト ・定期考査</p>	<p>◎説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p> <p>・パラグラフ毎に書かれている内容の概要や要点を短時間で理解することができる。</p> <p>・物語やエッセイを読むとき、注釈や説明を参考にしながら、あらすじや要点をなんとか理解することができる。</p> <p>・簡単な説明文を読み、筆者の意図を適切に読みとることができる。</p> <p>・英文の内容の理解に多少不十分な点はあるが、内容が聞き手に伝わる自然な区切りやスピードで音読ができる。</p>	<p>コミュ英Ⅰ ・リーディングテスト ・定期考査 ・音読テスト ・暗唱テスト ・定期考査</p>

図3 学年ごとの年間指導計画

平成26年度 年間学習指導計画						
教科: 外国語		科目: コミュニケーション英語 I	使用教科書: Genius English Communication I (大修館書店)			
対象: 普通科 1年生		必修別: 必修				
補助教材: 学習ノート 音声CD						
科目の目標(学習指導要領)						
◎英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 学年の学習到達目標(CAN-DO形式) ◎英語の基本的事項を理解するとともに、4技能を自由に使いながら自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。 ■外部試験による到達目安: GTEC Total Score 380						
1年次 学習到達目標						
「聞く」	◎物事に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。					
「読む」	◎説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。					
「話す」	◎聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、自分の意見を表現したり相互に意見を交換したりすることができる。					
「書く」	◎聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書くことができる。					
単元	単元名(教科書)	目標	評価規準(到達目標CAN-DO)	対応CAN-DO	主な学習活動	評価方法・目標
4月・5月	Lesson 1 A Village of One Hundred	意図	・「100人の村」の現状から見える現代世界の様々な問題について関心を持ち、教師の問いに対して、積極的に自分の考えを述べようとする。	-	(言語活動への積極的な取り組み)	a
		表現	・地球が抱える問題に関心を持ち、ペア・ワークやグループ・ワークにおいて積極的に関与する。	S-9-Gr1 (コミュニケーションの継続)	(コミュニケーションの継続)	
		理解	・地球が抱える問題に関する本文の要点をまとめる。	S-5-Gr1	ワークシートを用いたオールサマリー発表	
		知識・理解	・ペアになりshamを用いながら「100人の村」の概要を説明する。	S-7-Gr1	ペアもしくはグループでのストーリーテリング	
6月	Lesson 2 Three Cups of Tea	意図	・アメリカ人登山家がパキスタンの交流に関心を持ち、ペア・ワークやグループ・ワークにおいて積極的に自分の考えを述べようとする。[S/W]	S-9-Gr1 (コミュニケーションの継続)	(言語活動への積極的な取り組み)	a
		表現	・アメリカ人登山家がパキスタンで経験した話の要点を伝える。	S-5-Gr1	ワークシートを用いたオールサマリー発表	
		理解	・地球が抱える問題について、感想・意見を3文程度で書く。	W-3-Gr1	フリーライティング・相互コメント	
		知識・理解	・ペアになりshamを用いながら「100人の村」の概要を説明する。	R-7-Gr1	ペア発表等	
7月	Lesson 3 More Than Just a Piece of Cloth	意図	・日本の伝統文化の一つである風呂敷の歴史と関心を持ち、教師の問いに対して、積極的に自分の考えを述べようとする。	S-9-Gr1 (コミュニケーションの継続)	(言語活動への積極的な取り組み)	a
		表現	・日常生活の中で使われる日本の伝統文化を3点まとめ、クラス全体の中で発表する。	S-4-Gr1	ワークシートを用いたオールサマリー発表	
		理解	・風呂敷の歴史について、感想・意見を3文程度で書く。	W-3-Gr1	フリーライティング・相互コメント	
		知識・理解	・ペアになり風呂敷の使われてきた歴史の概要を説明することができる。	R-7-Gr1	ペア発表等	
8月	Lesson 4 Borneo's Moment of Truth	意図	・ボルネオの自然保護に関する話に関心を持ち、ペア・ワークやグループ・ワークにおいて積極的に自分の考えを述べようとする。	S-9-Gr1 (コミュニケーションの継続)	(言語活動への積極的な取り組み)	a
		表現	・ボルネオの自然保護に関する話の要点を伝える。	S-5-Gr1	ワークシートを用いたオールサマリー発表	
		理解	・ボルネオの熱帯雨林破壊の原因や、2人の環境保護論者の考え方について自分の考えを伝える。	S-7-Gr1	ペアもしくはグループでのストーリーテリング	
		知識・理解	・ペアになりshamを用いながら「100人の村」の概要を説明する。	R-7-Gr1	ペア発表等	
9月	Lesson 5 Alex's Lemonade Stand	意図	・「100人の村」の現状から見える現代世界の様々な問題について関心を持ち、教師の問いに対して、積極的に自分の考えを述べようとする。	S-9-Gr1 (コミュニケーションの継続)	(言語活動への積極的な取り組み)	a
		表現	・アメリカ人登山家がパキスタンで経験した話の要点を伝える。	S-5-Gr1	ワークシートを用いたオールサマリー発表	
		理解	・地球が抱える問題について、感想・意見を3文程度で書く。	W-3-Gr1	フリーライティング・相互コメント	
		知識・理解	・ペアになりshamを用いながら「100人の村」の概要を説明する。	R-7-Gr1	ペア発表等	

【Self-Evaluation Sheet】 Lesson 7 Mother of Women's Judo

☆女子柔道の母と呼ばれる米国人女性の生涯について理解し、スポーツおよび男女間の不平等について学ぶ。

評価の観点	目標	CAN-DO	Evaluation			
コミュニケーションへの意欲・態度 関心	・スポーツと男女間の不平等に関する話に関心をもち、ペア・グループやグループ・グループにおいて積極的に自分の考えを述べようとする。	1	・女子柔道を世界に普及させるためにラスネイが果たした役割や、それを達成するまでの困難さについて関心を持ち、自分の考えを表現しようとしている。	A・B・C		
		2	・対話活動ではペアで協力して、相手の考えや表現の良いところを口頭でほめながら、積極的にお互いの考えを述べようとしている。	A・B・C		
		3	・スポーツと男女間の不平等に関する話について、キーワードを使って口頭で英文を作り、フローチャートなどを用いながら、ペアもしくはグループでリーディングができる。	A・B・C		
		4	・グループ等を使って準備をすれば話し合いに参加し、ラスネイの女子柔道普及のために捧げた生き方について、自分の考えを発言することができる。	A・B・C		
		5	・スポーツと男女間の不平等に関する話について、情報や考えをまとめ、自分の言葉で発表することができる。(目安:60秒スピーチ)	A・B・C		
		外国語表現の能力	・興味あるスポーツについて調べ、それがオリンピック種目として認められているか、また、男女間で不平等な扱いはないかなどについてまとまりのある文章で簡潔に書く。	6	・興味あるスポーツについて調べ、それがオリンピック種目として認められているか、また、男女間で不平等な扱いはないかなどについてまとまりのある文章で簡潔に書くことができる。(目安:50語程度)	A・B・C
				7	・聞き手に内容が、ほぼ伝わることができる。	A・B・C
				8	・比較的ゆっくりと語られる各Partの英文を聴き、推測しながら概要を理解することができる。	A・B・C
		外国語理解の能力	・スポーツと男女間の不平等に関する話を聞くこと、読むことで理解する。	9	・スポーツと男女間の不平等に関する話について読み、パラグラフ毎に書かれている内容の概要や要点を短時間で理解することができる。(目安:75WPM)	A・B・C
				10	・過去完了進行形の形・意味・用法を理解し、言語規則に基づいて、簡単な自己表現ができる。	A・B・C
				11	・動名詞の意味上の主語を含む英文の形・意味を理解し、言語規則に基づいて、簡単な自己表現ができる。	A・B・C
		言語や文化について の知識・理解	・女子柔道の普及活動の中でラスネイが経験した困難について、当時の社会的・文化的な背景の観点からその原因を探るとともに、現代の他のスポーツで男女間の不平等が存在しているかどうかを調べその原因を把握する。	12	・分詞[動詞+現在分詞/過去分詞・知覚動詞+O+現在分詞/過去分詞]を含む英文の形・意味を理解し、言語規則に基づいて、簡単な自己表現ができる。	A・B・C
				13	・女子柔道の普及活動の中でラスネイが経験した困難について、当時の社会的・文化的な背景の観点からその原因を探るとともに、現代の他のスポーツで男女間の不平等が存在しているかどうかを調べその原因を把握している。	A・B・C
この課の学習で学んだこと、できるようになったこと		Instructor's comment				

Class 1-() No. () Name()

図4 Self-Evaluation Sheet

[ウォームアップ活動の例]

- 自分の筆箱の中身について、関係代名詞を使って説明し合う。
- 一方の生徒が誤った情報を含む文を言い、それをもう一方の生徒が強調構文を使って訂正する。

上記のようなペア・ワークでは、できるだけ実践的な言語活動になるよう工夫している。例えば、「下線部を強調する文に書き換えなさい」といった問題を解いているだけでは強調構文に関する知識が備わるのみで、それを実際の場面で応用することは難しい。単に構文として暗記させるのではなく、実際のコミュニケーションの中で当該文法事項を使うことを大切にしている。また、ペア・ワークでは、毎回生徒の組合せを変えている。様々な生徒と活動することによって、クラスの中でロール・モデルとなるような生徒と一緒に活動したり、クラスメートの知らなかった一面が見えたりするという利点もある。

日頃のペア・ワークなどを通して培ったスピーキング力の評価は、年4回、1対1のインタビュー形式で行う。廊下に3つのブースを設け、生徒は一人ずつインタビューテストを受け、残りの生徒は教室でエッセイテストに取り組む。インタビューでは、その場でイラストや写真を見て質問に答える形式や、あらかじめ与えられたテーマについて話す1分間スピーチなど様々で、学期ごとに手法を変え、多面的に生徒の力を測るようにしている。即興で話す力を評価する際は、文法の正確性はそれほど重視していない(図5)。一生懸命に話せば内容と姿勢の観点で大きく加点されるように配慮している。

図5 スピーキングテストの評価表

English Communication II <Speaking Test Evaluation Sheet>						
June 2014						
2-() No. () Name()						
Question 1		5	Understand teacher's questions and answer in sentences.	3	Understand teacher's question and try to answer in sentence or in words.	1 No reply.
Question 2		5	Understand teacher's questions and answer in sentences.	3	Understand teacher's question and try to answer in sentence or in words.	1 No reply.
Question 3	Content	5	Clear and logical.	3	Comprehensible.	1 Hard to understand.
	Fluency	5	A little silence and with almost natural rhythm.	3	Some silence but trying to convey information in sentences.	1 A long unnatural silence and very slow.
	Accuracy	5	Almost correct with some slight errors.	3	With some errors but comprehensible.	1 Some global errors and hard to understand.
Attitude		5	Eager to communicate and trying hard to carry on the conversation.	3	Moderately fine eye contact, volume, etc.	1 Needs improvement.
Total Score						/ 30

4. 書いた文章を生徒相互で読むことによって、読み手を意識したライティングに

ライティングでは、教科書本文の要約が書けるようにすることを重視しているほか、授業の2回に1回は、例えば「登場人物にEメールを書く」といったテーマで、まとまりのある文章を書く機会を与えている。教科書の内容に自分自身の解釈や感想を盛り込みながら上手に説明する生徒がいる一方、教科書の単語をつなげたり同じ表現を使ったりしながら何とか文章を完成させる生徒もいる。英語力に差はあるものの、生徒が興味を持つことができるテーマを設定することで、書こうとする意欲を喚起している。

完成した文章はペアやグループで相互に読み合い、よいと思ったところに下線を引いて英語で肯定的なコメントを書き込む。常に生徒同士が読み合う機会を設けることで、読み手が理解しやすいように文章を書くことを心がけるようにしている。また、書き手を褒めるだけではなく、時には“Please write more about it.”や“Why do you think so?”など、励ましや質問を書く生徒もいる。さらに、「私だったらこう書く」というように、よりわかりやすい文章や単語を書き添えてアドバイスする場合もある。生

徒同士のアドバイスは、教員の指導以上に効果が大きい場合もあるようだ。

スピーキングテストと同時進行で行うエッセイテストは、ライティングの評価に加算されるとともに、全国英語教育研究団体連合会(全英連)の英作文コンテストに向けた校内予選を兼ねている。評価はスピーキングと同様、評価者がストレスなく読めれば3点、新しい表現にチャレンジしていれば5点というように加点方式とし、文法の正確さはそれほど求めない。

教室からの声

平成22年度に同校が実施した意識調査では、英語をコミュニケーションのツールとしてとらえている生徒が少なかった。最近のアンケートでは、「学習した文法を実際に口に出して会話することで、より実用的な英語のスキルが身に付いた。自分で考えたことが、少しずつではあるが口頭で表現できるようになってうれしい」、「授業中のスピーチで、メモだけではなく相手の顔を見ながらできたとき、少しだけ成長できていると感じた」など肯定的な回答が増えており、コミュニケーション型の英語を学ぶ中で、自分の成長を実感している様子が見られる。

◎授業以外の取組

1. 有志の生徒で英字新聞を発行

英語を使った活動は、授業外へも広がりを見せている。改革に着手して半年後の平成22年12月には、有志の生徒による英字新聞の発行が始まった。現在は約20人の英語部が編集・発行を引き継いでおり、部員が記者として記事を書いたり、生徒の寄稿を受け付けたりして2～3か月に1回発行し、生徒全員に配付している。

全国高等学校生徒英作文コンテストや県のスピーチコンテストへは毎年出場しており、5年連続で上位入賞を果たしている。自治体や企業が主催する短期海外研修プログラムにも、多くの生徒が参加を希望する。コンテストや研修への参加は、以前は英語部の生徒が中心だったが、今ではそれ以外の生徒の希望者も多い。いずれも人数制限があるため、教員が英語力や意欲などを見て選抜するが、それでも希望者は後を絶たない。数年前と比べ、生徒の外向き指向が目立ってきている。

2. 大使館へ英語の手紙を送り、返事をもらう

平成26年度には、教科書でホロコーストに関する文章を読んだ直後、東京都の公立図書館で『アンネの日記』が破られる事件が発生した。教員の呼びかけで、十数人の生徒が代表してイスラエル大使館に英語の手紙を書いて送り、ホロコーストの歴史を学び、過ちが繰り返されないように願っている高校生が多いことを伝えた。後日、手紙を書いたすべての生徒に駐日イスラエル大使から英語の返信が届いた。このことに生徒は驚くとともに大変喜び、英語は外に発信して初めて意味があるということを実際の体験を通して学ぶことができた。

このように、同校では生徒のモチベーションを重視し、全校が一丸となって英語教育改革に取り組んでいる。今後の課題は、生徒がより一層自発性を高めていくことである。依然として、友達の前で話すことが苦手だという生徒もいる。そのような生徒が積極的に取り組めるようなタスクの開発を継続していくとともに、パフォーマンスの評価方法についても更なる改善を図っていくことになっている。